

# おおぞら

No.162

聖隸福祉事業団への法人移管後は45号

社会福祉法人 聖隸福祉事業団  
総合病院 聖隸三方原病院  
聖隸おおぞら療育センター

〒433-8558  
静岡県浜松市北区三方原町3453  
TEL 053-437-1467

発行責任者 荻野和健  
編集者 野地功治

2014年6月1日

## ことばの前のことば

所長 横地 健治

重症心身障害児(者)のうち、有意な言語理解もなく、寝返りもできない人たちは、横地分類A1(裏面参照)と呼ばれる最重症のグループです。聖隸おおぞら療育センターでは、現在の入所者129名中66名(51%)がA1に分類されます。知能障害程度でみると、99名(77%)が「A」に分類されます。以前、全国の重症心身障害児(者)施設入所者の横地分類を調査しましたが、最多はA1でした。どの程度の知能障害をもつて重症心身障害を定義するかは別として(これにはあまた議論がありましす)、重症心身障害の大数がA判定の知能障害をもつていることに異論はないと思します。

「A」は、発達年齢が1歳未満であることを表しています。1歳未満の小児(乳児)は、言語理解がありません。このことをもって、言語理解のみられない重症心身障害児(者)は、その知的発達段階が健常乳児と同等であるとしています。これはずいぶん乱暴な近似と言つても、新生児から、言

語理解が明らかとなる1歳直前の段階までが含まれます。極めて幅広い発達段階を一括りにしていることになります。また、年長の重症心身障害児(者)では、人生経験を経て、健常乳児より豊かな日常生活の知恵があります。つまり、知能障害がA判定でも、健常1歳児より優れた認識能力を持つことはあり得ます。身の回りにある物を理解し操作すること、場所を区別すること、あるいは人を区別することもあるかもしれません。これは、知能レベルと適応行動レベルが違い、後者の方が高いと言ふことです。

新生児から1歳までに健常小児はめざましい進歩を遂げます。ひとつ例として、人との関係をみてみます。新生児はよく母を見つめます。これは、目がふたつ書いてある絵を見つめるのと同等なのかもしれません。しかし、7-8ヶ月の子が「ひとみしり」をするのは、相当深い意味があることになります。この頃になると、人の顔を見つめます。見慣れた保護的な人(母や家族)とは違う人であ

ることを、顔を見てわかり、さらに恐怖・嫌悪のような不安感を示すということは、自分が不幸になることを漠然と予期する力もついてきたようになります。されば、今までわからなかつたものが突然わかるようになるのでしょうか。こんなことがあるはずはありません。簡単な言語理解は「冰山の一角」と考るべきです。触つてわかる世界、音を聞いてわかる世界、見てわかる物の世界、人の振る舞いの世界、表情の世界など、たくさん意味あるものの世界が育ち、音声言語の世界が現れます。健常児では、1歳になる前には、こうした高度な対人関係をとるようになつてきます。

それでは、有意な言語理解のない重症心身障害児(者)では、その対人関係はどのあたりにあるのでしょうか。当然、個々に違う段階にあるのだろうと思います。これを知ることは簡単ではありません。不意な来訪者にどんな態度をとるのか、新職員が現れたらどんな反応をするのか、特定の

職員に三項関係を求めることがあります。健常児では1歳頃になると簡単な言葉(「ママ」など)を聞いてわかるようになります。されば、今までわからなかつたものが突然わかるようになるのでしょう。さらに9-10カ月になると、指さしをして、母にも自分が指さした物と一緒に見てほしいと訴えるようになります。これは、同じ物にともに注意を向けることを求めています。これは、発達心理学では「三項関係」と呼ばれています。ある物の意味を自分と共有する特別の人間の認識が、この場面では見られます。健常児では、1歳になる前には、こうした高度な対人関係をとるようになつてきます。

「ことばの前のことば」(やまだようこ著)は、乳児期の発達心理学の本です。音声言語を獲得する以前に、豊かな受容と表出の世界が、母と子の間にはあることをこの本は述べています。これと同様によく、重症心身障害「A」の「ことばの前のことば」を私たちもつと深く知らねばならないと思っています。

